

もくじ

もくじ	1
はじめに	4

1章 バッテリー駆動 7

1 バッテリーについて	8
1 バッテリー充電量を確認する	10
2 バッテリーを充電する	13
3 バッテリーパックを交換する	15
2 省電力の設定をする	17
3 パソコンの使用を中断する	24
4 簡単に電源を切る／ パソコンの使用を中断するとき	29

2章 ハードウェア応用編 31

1 キーボードのいろいろな使いかた	32
2 ディスプレイの設定	37
1 表示について	37
2 デスクトップのデザインを変える	39
3 内蔵モデムについて	43

3章 周辺機器の接続 47

1	周辺機器について	48
1	本製品に接続できる周辺機器	48
2	周辺機器を使う前に	50
3	取り付け／取りはずしのご注意	51
2	PCカードを接続する	52
3	USB 対応機器を接続する	56
4	プリンタを接続する	58
5	テレビを接続する	60
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ...	62
7	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	65
8	マイクロホンを接続する	68
9	ヘッドホンを接続する	69
10	CRT ディスプレイを接続する	70
11	LAN へ接続する	74
12	メモリを増設する	79

4章 使用環境の設定 85

- 1 使用環境の設定とは 86
- 2 東芝HWセットアップを使う 87
- 3 セットアッププログラムを使う 93
 - 1 起動 94
 - 2 終了 94
 - 3 画面と基本操作 95
 - 4 設定項目 97

付録 113

- 1 本製品の仕様 114
 - 1 外形寸法図 114
 - 2 サポートしているビデオモード 115
 - 3 メモリマップ 117
 - 4 I/Oポートマップ 118
 - 5 DMA使用リソース 119
 - 6 IRQ使用リソース 120
- 2 各インタフェースの仕様 121
 - 1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース 121
 - 2 PRT インタフェース 122
 - 3 RGB インタフェース 123
 - 4 USB インタフェース 124
 - 5 モデムインタフェース 124
 - 6 LAN インタフェース 125

さくいん 141

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心して
お使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。
本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは ^{じゅうしょう} 重傷を負う危険が差し迫って発生する可能性があることを示します。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは ^{じゅうしょう} 重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が ^{しょうがい} *1 傷害を負ったり、*2 物的損害の発生が想定される内容を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 用語	覚えておくに役に立つ用語を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合… 「 」 他のマニュアルへの参照の場合… 『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合… 〈 〉

*1 ^{しょうがい}傷害とは、^{ちりょう}治療に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

*2 物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
..... アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタANDARD 2002 を示します。

記載について

- ・ 本書で使用している DynaBook のイラストは、15 インチモデルです。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Intel、Pentium、インテル、SpeedStep は、Intel Corporation の商標、または登録商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ K56flex は、Lucent Technologies と Rockwell Semiconductor Systems の登録商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

お願い

- ・本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- ・本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- ・記憶装置（ハードディスク、フロッピーディスク）や、CD-R、CD-RWに記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- ・本製品にプレインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本書の内容について万一不可解な点や誤りなど、お気づきの点がございましたら、東芝PCダイヤル（巻末参照）までご一報ください。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章 バッテリー駆動

- 1 バッテリーについて 8
- 2 省電力の設定をする 17
- 3 パソコンの使用を中断する 24
- 4 簡単に電源を切る
／パソコンの使用を中断するとき 29

1

バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品に添付の『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

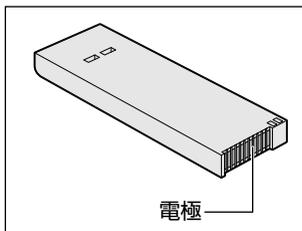
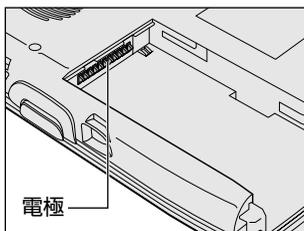
 『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

警告

- ・バッテリーパックの使用時、充電時、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体から取りはずしてください。
- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PA2487U1）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

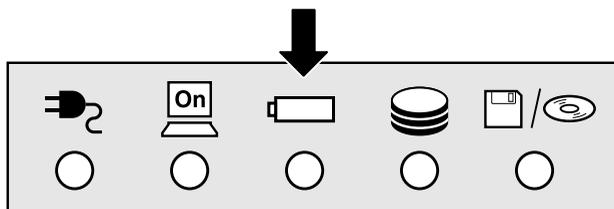


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LED で確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery  LED が緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリーが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリー異常

タスクバーの【省電力】アイコンで確認する

タスクバーの【省電力】アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。

- ACアダプタを接続している場合



(表示例)

- バッテリー駆動の場合



(表示例)

-  ● タスクバーに表示される【省電力】アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 東芝省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] → [東芝省電力]) の【電源設定】タブの設定内容によっては、タスクバーに【省電力】アイコンが表示されません。表示させたいときは、【電源設定】タブで【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- 警告音（ビープ音）が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
 - 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
- ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。



- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われまでするので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
電源ON (Power  LEDが点灯)	10時間以上
電源OFF (Power  LEDが消灯)	ほとんど充電しない



- 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず常時充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ON	約8時間以上
電源OFF	約2～3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ハイパワー	約2.0時間

(注) 当社オリジナルプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。放置環境などによって異なりますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

-  ● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 「本章 3 パソコンの使用を中断する」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリーパックを交換する

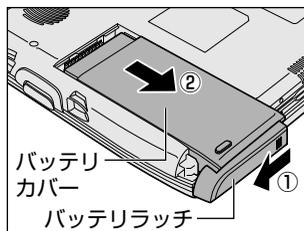


- バッテリーパックの取り付け/取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

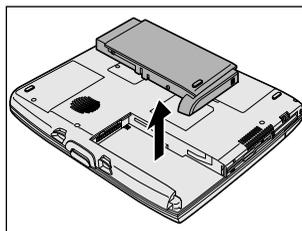
取り付け/取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [Windows の終了] をクリックする
- 3 [終了] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

- 6 バッテリーラッチを横に押し①、
バッテリーカバーをスライドさせる
②

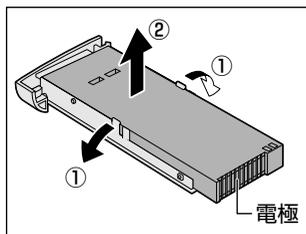


- 7 バッテリーパックごと、バッテリーカバーを取り出す

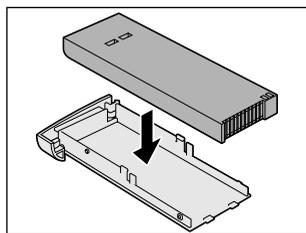


8 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

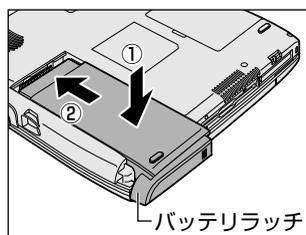


9 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける

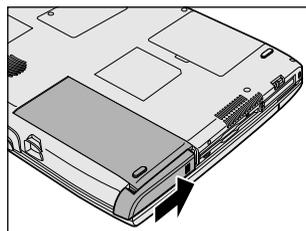


10 バッテリーラッチが左側にあることを確認し、バッテリーパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②

新しい、あるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。



11 バッテリーラッチをスライドさせ、バッテリーパックを固定する



2

省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコン () をダブルクリックする

[電源設定] タブ

画面は、インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルの表示例です。



(表示例)

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

■ 【電源に接続】【バッテリーを使用中】

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。【電源に接続】【バッテリーを使用中】はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

●フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、【電源に接続】（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

●ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、【バッテリーを使用中】（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () がタスクバーに表示されます。

省電力アイコンを右クリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

[タスクバーに Intel(R) SpeedStep(TM) Technology の状態を表示する] をチェックする () と現在の CPU 周波数 (インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサ) の状態を示すアイコン () がタスクバーに表示されます。

CPU 周波数アイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更できます。

【休止状態】 タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



省電力モードの詳細設定

- 1 【電源設定】 タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、【詳細】 ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

■ 【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■ 【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■ 【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ バッテリーが消耗したとき
- ・ 故障、修理、電池交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

● スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイまたは休止状態から復活するときに Windows パスワードの入力が必要になります。



- ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。



- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、スタンバイまたは休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

■ 【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

【アラーム】 タブは【電源設定】 タブで【バッテリー使用中】に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3

パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。

スタンバイ

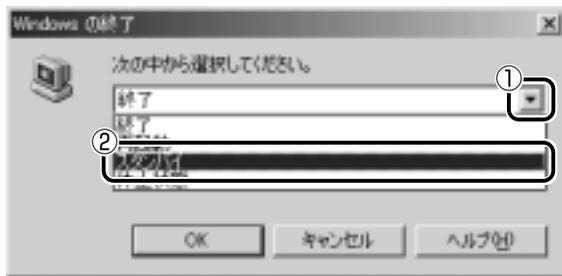
作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



(表示例)

2 ▼ ボタンをクリックし①、[スタンバイ] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

4 Power LED がオレンジ点灯しているか確認する



- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

警告

- ・ パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

注意

- ・ スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

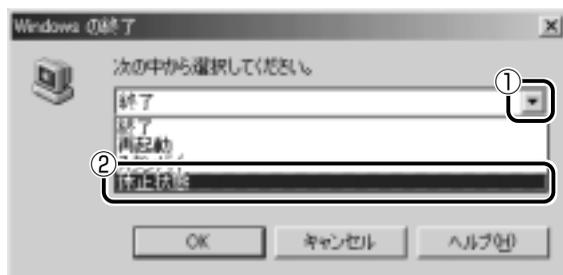
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



(表示例)

3 ▼ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

[スタート] メニューから以外にも、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。



- 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk  LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。



詳細について

➡ 「本章 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

再起動

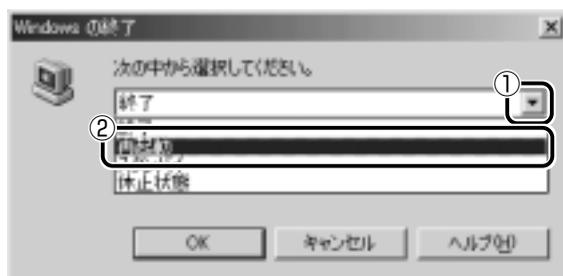
いったん Windows を終了した後、すぐにもう 1 度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

1 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



(表示例)

2 ▼ ボタンをクリックし①、[再起動] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

4

簡単に電源を切る ／パソコンの使用を中断するとき

〔スタート〕メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)
- ③ [適用] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

 ● (Fn)+(F3)キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り換えることができます。

 詳細について ⇨ 「2章 1- Fn キーを使った特殊機能キー」

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、またはパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ③ [適用] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する



- 手順1の③で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

2章 ハードウェア応用編

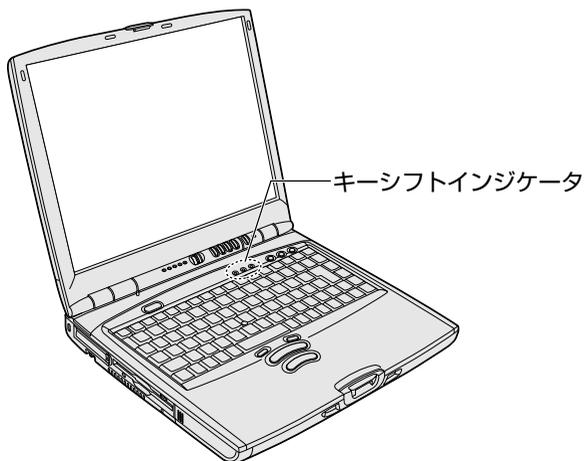
- 1 キーボードのいろいろな使いかた 32
- 2 ディスプレイの設定 37
- 3 内蔵モデムについて 43

1

キーボードのいろいろな使いかた

キーシフトインジケータの切り替え

キーボードのキーは、状態によって入力できる文字が異なります。
キーシフトインジケータは、入力状態を示します。



	Caps Lock LED	文字入力の「大文字ロック状態」
	Arrow Mode LED	文字入力の「アロー状態」
	Numeric Mode LED	文字入力の「数字ロック状態」

■ CapsLock LED

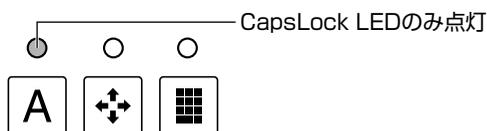
文字キーを押すと、英字の大文字が入力できる「大文字ロック状態」を示します。

(Shift)+(CapsLock 英数)キーを押すと、Caps Lock [A] LEDが点灯し、大文字ロック状態になります。

すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合、3つのLEDの状態を次のようにしてください。

大文字ロックは数字ロックやかな入力よりも優先度が低いため、LEDの状態が異なると、一部のキーが数字やキー制御のキーとなり、英字が入力できません。

大文字ロック状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



MS-IME ツールバーを表示している場合は、[CAPS] の文字が囲んで表示されます。



大文字ロック状態を解除するには、もう一度(Shift)+(CapsLock 英数)キーを押します。解除されると、CapsLock LEDは消灯します。

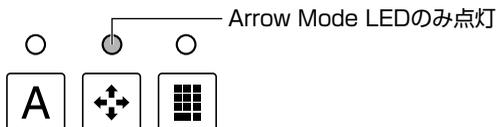
■ Arrow Mode LED

オーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使用できる「アロー状態」を示します。

(Fn)+(F10)キーを押すと、Arrow Mode [↔] LEDが点灯し、「アロー状態」になります。アロー状態でオーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使えます。

アロー状態を解除するときは、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。解除されるとArrow Mode LEDは消灯します。

アロー状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



参照 オーバレイキーについて

☞ 『基本をマスター 3章 1 キーボードについて』

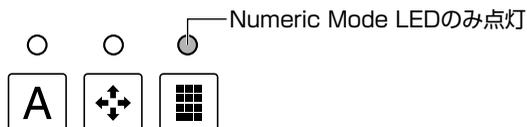
■ Numeric Mode LED

オーバーレイキーを押すと、数字が入力できる「数字ロック状態」を示します。

(Fn)+**(F11)**キーを押すと、Numeric Mode  LEDが点灯し、数字ロック状態になります。

数字ロック状態でオーバーレイキーを押すと、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

数字ロック状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



 オーバーレイキーについて

▷『基本をマスター 3章 1 キーボードについて』

(Fn)キーを使った特殊機能キー

キー	内容
(Fn) + (F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	表示画面をオフにし、キーボードやマウスから入力できなくします。解除するには、パスワードを設定している場合はパスワードを入力し、 (Enter) キーを押します。 パスワードを設定していない場合は (Enter) キーまたは (F1) キーを押します。 パスワードは、「東芝 HW セットアップ」で設定します。  パスワードの設定 ▷「4章 2 東芝HWセットアップを使う」
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn) キーを押したまま、 (F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。

<p>(Fn) + (F3) <使用する機能の選択></p>	<p>(Fn) + (F3)キーを押すと、電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）のメニューが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F3)キーを押すたびに、表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。</p>
<p>(Fn) + (F4) <アラーム音量の調節></p>	<p>アラーム音量を調節します。ビープ音で音量を知らせます。 (Fn)キーを押したまま、(F4)キーを押すたびに音量が変わります。 「OFF→小→中→大」</p>
<p>(Fn) + (F5) <表示装置の切り替え></p>	<p>表示装置を切り替えます。  詳細について ◎ 「3章 5 テレビを接続する」 ◎ 「3章 10 CRTディスプレイを接続する」</p>
<p>(Fn) + (F10) <アロー状態></p>	<p>キートップ前面左側に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F11) <数字ロック状態></p>	<p>キートップ前面右側に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F12) <スクロールロック状態></p>	<p>一部のアプリケーションで(↑) (↓) (←) (→)キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F12)キーを押します。</p>

キーを使ったショートカットキー

 (ウィン) キーと他のキーとの組み合わせを、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
 + 	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 + 	すべてをアイコン化する
 +  + 	すべてのアイコン化を元に戻す
 + 	Windows の『ヘルプとサポート』を起動する
 + 	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 + 	ファイルまたはフォルダを検索する
 +  + 	他のコンピュータを検索する
 + 	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 + 	[システムのプロパティ] 画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操作
システムの再起動	 +  + 	プログラムの強制終了画面が表示されます。もう1度押すと、システムを再起動します。
画面コピー	 + 	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	 +  + 	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。



- システムが操作不能になったとき以外は、 +  +  キーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

2

ディスプレイの設定

1 表示について

■ 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1600×1200ドット	65,536色
1280×1024ドット	1,677万色
1024×768ドット	1,677万色
800×600ドット	1,677万色
640×480ドット	1,677万色

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

 ● 1,677万色はディザリング表示です。

 ● **ディザリング** ● 1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

解像度を変える

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブで、[画面の領域] を変更する
パソコンの絵の中に、プレビューが表示されます。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

-  ● それぞれのパソコンには、ディスプレイの大きさに応じて、適した表示サイズがあります。かえって見づらくなる場合は、元の設定に戻してください。

2 デスクトップのデザインを変える

壁紙を変える

デスクトップの壁紙を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする

- 2 [背景] タブで画像を選択する

パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

- 指定できる画像ファイル

bmp ファイルが使用できます。

[Web] タブで [Active Desktop に Web コンテンツを表示] がチェックされている場合、gif、jpg、html ファイルなども使用できます。



Active Desktop の設定 ⇨ 「本項 Active Desktop の設定」

- 画像の位置を指定する

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

[画像の位置] を [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

[Web] タブで [Active Desktop に Web コンテンツを表示] がチェックされていないときに bmp 以外のファイルが選択されている場合は、「Active Desktop を有効にしますか？」のメッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックしてください。

ウィンドウの色を変える

変更したい部分（ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックス）を指定して、デザインの設定ができます。

- 1 **【コントロールパネル】** を開き、**【画面】 アイコン** () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、**【プロパティ】** をクリックする
- 2 **【デザイン】 タブの【配色】** で配色を選択する
プレビューが表示されます。
ウィンドウとタイトルバーの配色はあらかじめ Windows で名前が付けられています。（大きいフォント）と付いているものは、タイトルバーの文字が大きく表示されます。特に壁紙を指定しない場合は、あわせてデスクトップ背景の色も表示されます。
- 3 **【OK】 ボタン** をクリックする

スクリーンセーバを使う

お好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

- 1** [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
- 2** [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] でスクリーンセーバを選択する
スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。
[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、アキュポイントⅡまたはマウスを動かしてください。
- 3** [待ち時間] の時間 (分数) を設定する
例えば、「5」に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、アキュポイントⅡまたはマウスを動かさず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。通常の画面に戻すには、アキュポイントⅡまたはマウスを動かします。
- 4** [OK] ボタンをクリックする

Active Desktop の設定

Internet Explorer の機能と連動して、デスクトップ表示のカスタマイズを行います。Active Desktop を使うと、デスクトップの設定変更、プログラムの起動、ファイルの切り替えなどができます。

また、Web サイト（ホームページ）の内容をデスクトップの一部として表示できます。元の Web サイトが更新されると、壁紙に配置したデータも更新されます。



- Active Desktop を設定して、Web サイトの内容をデスクトップの一部として表示するには、インターネットに接続している必要があります。インターネットの接続を切断すると、Active Desktop の表示は更新されません。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
- 2 [Web] タブで [Active Desktop に Web コンテンツを表示] をチェックする
- 3 [新規] ボタンをクリックする
[新規の Active Desktop 項目] 画面が表示されます。手順に従って設定してください。
設定を終了すると、新規に設定した項目がボックスに一覧で表示されます。
項目をクリックして選択し、[プロパティ] ボタンをクリックすると、さらに詳しい設定ができます。
- 4 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

3

内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 および K56flex に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 または K56flex 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

■ 使用上のお願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。



- **分岐アダプタ** ● 1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
- **回線切換器** ● 1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、クウェート、ギリシャ、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、レバノン、ロシア

(2001年5月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Toshiba Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () がタスクバーに表示されます。

2 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。
現在設定されている地域設定と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



(表示例)

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする 地域名を選択した場合、表示される [ダイヤルのプロパティ] 画面で新しく所在地情報を作成します。

この場合、新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

■ その他の設定

- 1 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[ダイヤルのプロパティ] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[ダイヤルのプロパティ] の所在地情報が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[ダイヤルのプロパティ] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[ダイヤルのプロパティ] 画面を表示します。

3章 周辺機器の接続

1	周辺機器について	48
2	PC カードを接続する	52
3	USB 対応機器を接続する	56
4	プリンタを接続する	58
5	テレビを接続する	60
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ...	62
7	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	65
8	マイクロホンを接続する	68
9	ヘッドホンを接続する	69
10	CRT ディスプレイを接続する	70
11	LAN へ接続する	74
12	メモリを増設する	79

1

周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PCカード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では内蔵）
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

1 本製品に接続できる周辺機器

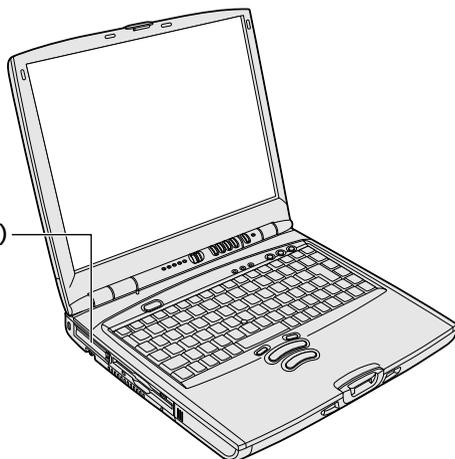
本製品には次のような周辺機器を接続できます。

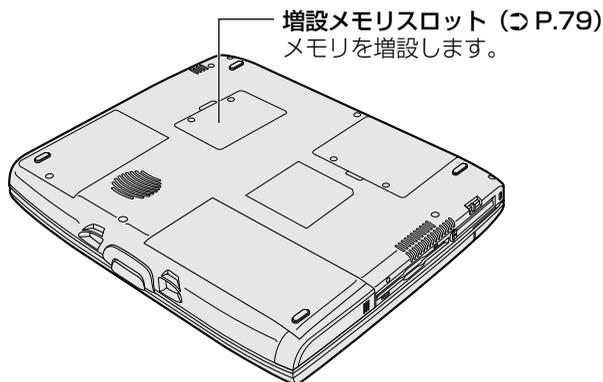
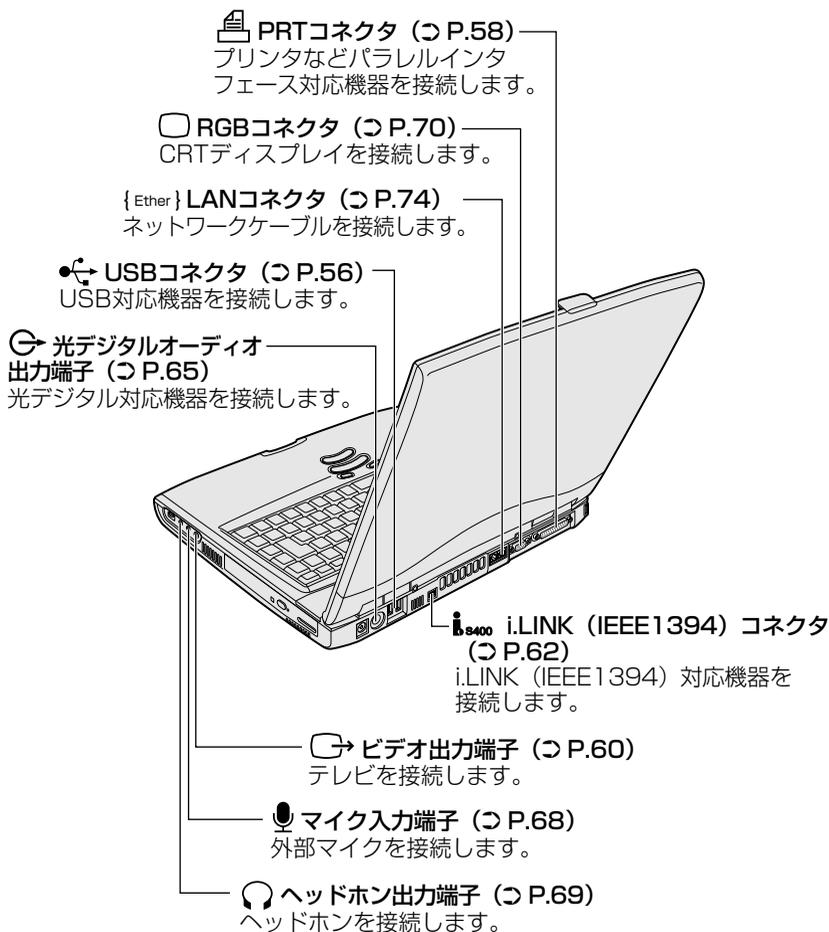
周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。



- **インタフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。

 **PCカードスロット** (⇒ P.52)
PCカードを接続します。





2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windows がドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



(表示例)

■ プラグアンドプレイに対応していない場合

[新しいハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧ください。ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



● [新しいハードウェアの追加ウィザード] の起動方法

[コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加] をダブルクリック

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2

PC カードを接続する

目的に合わせたPCカードピーシーを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PCカードには、次のようなものがあげられます。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI カード
- フラッシュメモ리카ード
- 無線 LAN カード など

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いのPCカードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。



- PCカード接続のハードディスクドライブまたはCD-ROMドライブの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。

- ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
- ・サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できるPCカードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II / III対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。

スロット0にTYPE IIIのPCカードを取り付けたときは、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE II
0（下側）	TYPE II/III

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ・PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

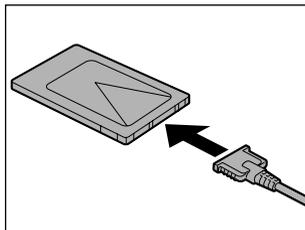


- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

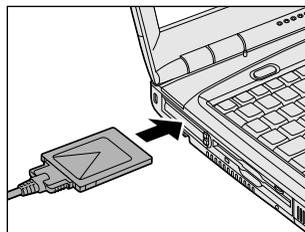
取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



カードの接続および環境の設定方法 ➤ 『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

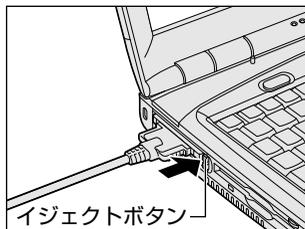
- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) の停止] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする



(表示例)

2 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

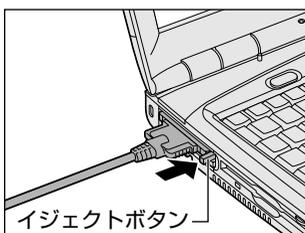
イジェクトボタンが出てきます。



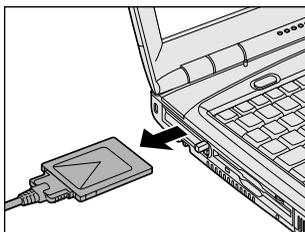
3 もう1度取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。

カードが少し出てきます。



4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く





- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

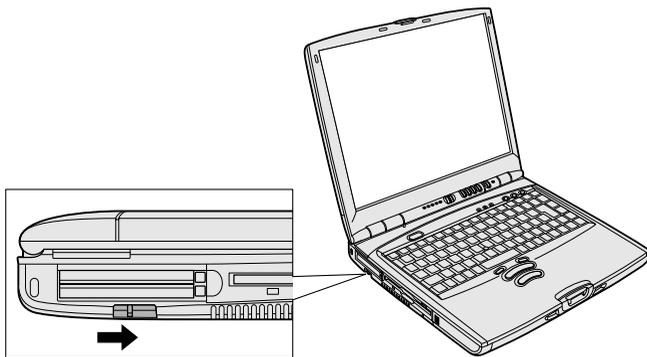
5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

PC カードをロックする

PC カードロックを使用することで、PC カードが取りはずせないようにすることができます。PC カードを取り付けた後、必要なときのみ行なってください。

1 PC カードロックを有効（右側）にする



さらに別売りのセキュリティロック機器を使って、PC カードロックを固定することもできます。

参照 セキュリティロック 『基本をマスター 6章 9 セキュリティロック』

	PCカードの取り付け／取りはずし
PCカードロックのみ有効	できない
セキュリティロックのみ有効	できる
PCカードロックと セキュリティロックの両方	できない

PC カードの取り付け／取りはずしを行う場合は、セキュリティロック
→ PC カードロックの順に解除してください。

3

USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

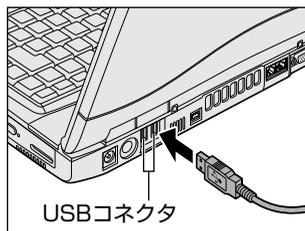
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込むコネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。



USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続します。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定について詳しくは『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

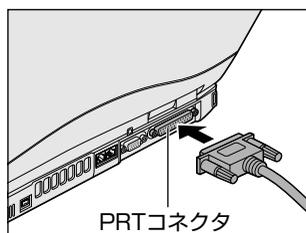


USB 対応機器について ⇨ 「本章 3 USB 対応機器を接続する」

取り付け

PRT コネクタに接続する場合の手順です。
プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続します。

- 1 プリンタケーブルのプラグをパソコン本体の PRT コネクタに差し込む



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

プリンタの設定

■ ドライバをインストールする

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。
ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。
プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。インストールを行なってください。

-  ● [プリンタの追加ウィザード] の起動方法
 [スタート] → [設定] → [プリンタ] をクリックし、[プリンタの追加] をダブルクリック

■ プリンタポートモードの設定

ご使用になるプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝 HW セットアップ] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [Parallel/Printer] タブの [Parallel Port Mode] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
 - ECP (標準値) ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
 - Standard Bi-directional ... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
 ご使用のプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

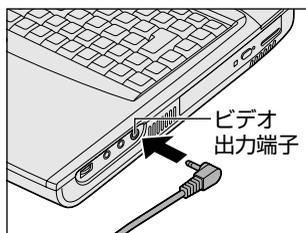
5

テレビを接続する

本製品には、テレビと接続できるビデオ出力端子が用意されています。同梱のビデオケーブルをお使いください。

取り付け

- 1 ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む

テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行なってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

■ 方法 1—画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする

3 [S3DuoView +] タブの [表示デバイス選択] で次のいずれかを選択する

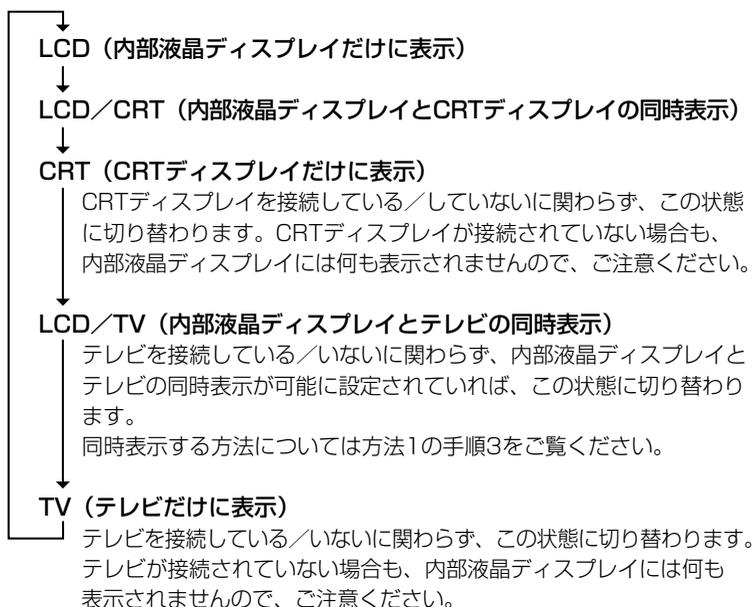
- LCD/TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
[LCD/TV] を選択するには、[コントローラの選択] で [デュアルコントローラ] を選択してください。
- TV テレビだけに表示



- MS-DOS プロンプトを表示している場合、パソコン本体の液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

■ 方法2—(Fn)+(F5)キーを使う

(Fn)キーを押したまま、(F5)キーを押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。



取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

6

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプリーイチサンキューヨン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-RW ドライブ など

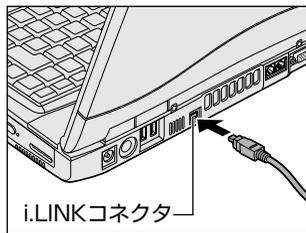
i.LINK (IEEE1394) 対応機器のご使用について

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ (データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ) のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なってありません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

取りはずし

1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

 参照  i.LINK 対応機器について ⇨ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

-  ● デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows Me で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。

1 ケーブルの一方のジャックをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のジャックを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

 参照  ネットワークの設定 ⇨ 『Windows のヘルプ』

-  ● i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。

7

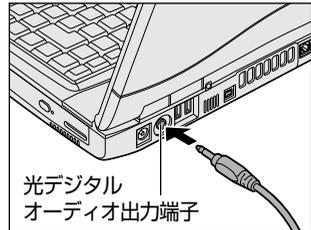
光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する

光デジタルオーディオ出力端子に接続します。
光デジタルオーディオ出力端子に接続できる機器（光デジタル対応機器とよびます）には、次のようなものがあげられます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカー
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む
プラグの形状を確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

■ 使用上のお願い

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行なっておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守の上、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- メディア切替スイッチを左（）にスライドしてマルチドライブだけを起動して音楽CDを操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から出力されません。

取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンポなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器の説明書』をご覧ください。

3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- ・「Windows Media Player」など、Windows に用意されているプレーヤまたは「LIVE MEDIA PLAYER」など一般のプレーヤで Wave ファイル、Midi ファイル、ムービーファイル (AVI / MPG)、音楽 CD などを再生する場合
- ・「InterVideo WinDVD」で「コピー可」のメディアを再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。



- シンクロ録音機能をお使いになる場合は、コントロールパネルの「ヤマハ DS-XG」をダブルクリックし、[出力] タブの [デジタル出力] で [ON (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。



- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のメディアを再生した場合、また「Audio Manager」など、著作権保護機能 (SCMS に準拠) を持つプレーヤで CD や音楽ファイルを再生した場合、録音はできません。



- **シンクロ録音機能** ● 光デジタル対応機器が、パソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能。
- **SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム)** ● デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術。例えば、音楽 CD から CD や MD に録音することはできるが録音した CD や MD から、さらに他の CD や MD に録音することはできない。

8

マイクロホンを接続する

マイク入力端子に接続します。

マイクのプラグは、直径 3.5mm φ モノラルミニジャックタイプをお使いください。

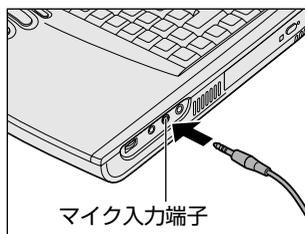
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

サウンド機能については、『基本をマスター 6 章 6 サウンド機能』をご覧ください。

接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



9

ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。



● ボリュームコントロールの起動方法

タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリック

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

サウンド機能については、『基本をマスター 6 章 6 サウンド機能』をご覧ください。

⚠ 注意

- ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



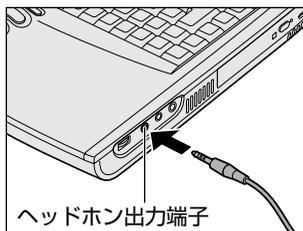
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



10

CRT ディスプレイを接続する

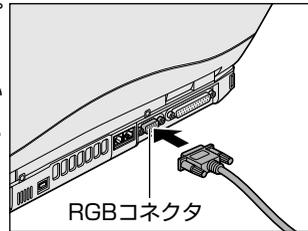
RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続します。



- パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続

- 1 CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む
取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する



- 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはマウス入力により表示が復帰します。
このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります
すが、故障ではありません。

■ 方法1 – 画面のプロパティで設定する

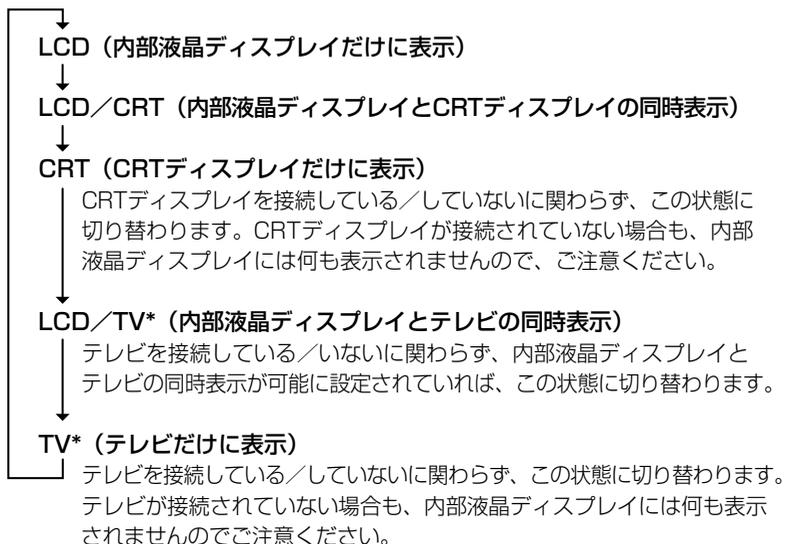
- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする
- 3 [S3DuoView +] タブの [表示デバイス選択] で次のいずれかを選択する
 - LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - LCD/CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
 - CRT CRTディスプレイだけに表示

■ 方法2 – 東芝HWセットアップで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝HWセットアップ] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [Display] タブで [Power On Display] を設定する
 - Auto-Selected CRTディスプレイだけに表示 (CRTディスプレイ接続時)
 - Simultaneous 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示

■ 方法3 - (Fn) + (F5) キーを使う

(Fn) キーを押したまま、(F5) キーを押すたびに次の順序で切り替わります。



* テレビ接続時について ⇨ 「本章 5 テレビを接続する」

■ 方法4 - 「セットアッププログラム」で設定する

1 セットアッププログラムを起動する

 セットアッププログラムの起動 ⇨ 「4章 3-1 起動」

2 [DISPLAY] で [Power On Display] を設定する



- 次のようなときには、表示方法を切り替えしないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

表示について



- CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



ビデオモードについて ➡ 「付録 1-2 サポートしているビデオモード」

11

LAN へ接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLAN インタフェースが内蔵されています。本製品のLAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

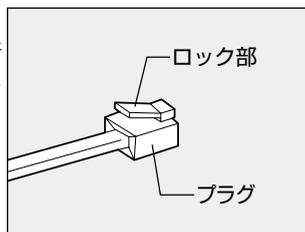
ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN コネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

LAN ケーブルの接続

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。



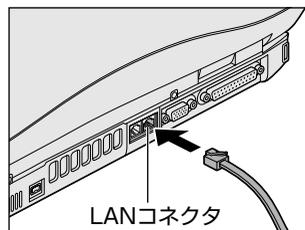
- LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグを背面のLAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、Windowsの『ヘルプとサポート』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

ご購入時は既定値が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。

注意

- ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

■ ネットワークの設定

1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワーク] アイコン () をダブルクリックする

2 [ネットワークの設定] タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- クライアント 他のコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータ同士は、同じプロトコルを使用する必要があります。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、他のコンピュータから使えるようにします。

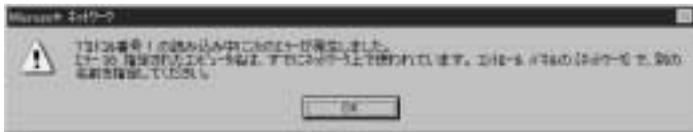
3 [識別情報] タブで、[コンピュータ名]、[ワークグループ]をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)

⚠ 注意

- ・ コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (OEMComputer、OEMWorkgroup) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続すると、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



4 [アクセスの制御] タブで、変更を行う



(表示例)

共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

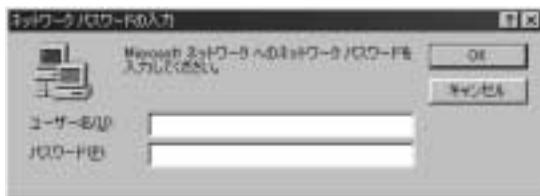
5 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

■ 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名とパスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



(表示例)

12

メモリを増設する

増設メモリスロットに256MBまでの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずにお買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・Wake up on LAN 機能を使用しているとき
 - ・メディア切替スイッチでマルチドライブの電源を ON にしているとき
 - ・電源を切った直後
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

■ 静電気について

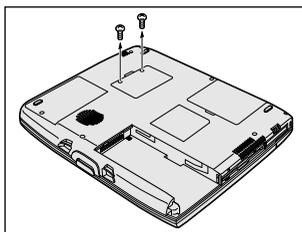
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

取り付け

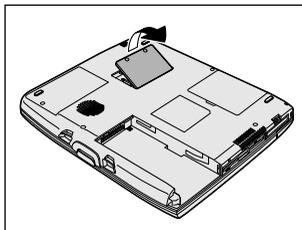
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 参照  バッテリーパックについて ⇨ 「1 章 1-3 バッテリーパックを交換する」

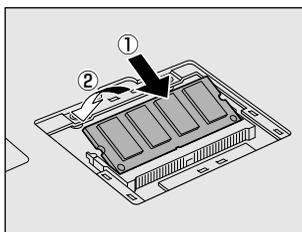
- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす



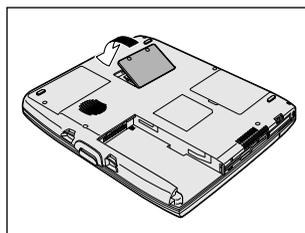
- 5 増設メモリカバーをはずす



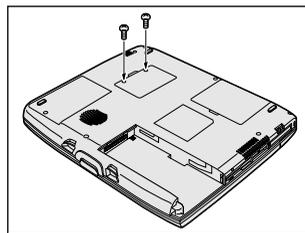
- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



- 8 手順4ではずしたネジ2本でとめる



- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか「PC診断ツール」で確認してください。

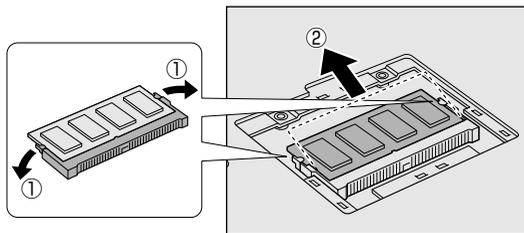


- PC診断ツールの起動方法

[スタート] → [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリック

取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす
 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」
- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 1-3 バッテリーパックを交換する」

4章 使用環境の設定

- 1 使用環境の設定とは 86
- 2 東芝HWセットアップを使う 87
- 3 セットアッププログラムを使う 93

1

使用環境の設定とは

次のようなパソコンの使用環境を設定できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器の接続ポート）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

使用環境を変更するには、次の方法があります。

- Windows 上のユーティリティで設定する
- セットアッププログラムで設定する

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

通常は、Windows 上のユーティリティで設定することをおすすめします。セットアッププログラムと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。



- セットアッププログラムで設定した内容は、バッテリーまたは時計用バッテリーで保持するため、電源を切っても消えません。ただし、どちらのバッテリーも消耗した場合は標準設定値に戻ります。

2

東芝HWセットアップを使う

東芝HWセットアップでハードウェアの設定を変更できます。
パスワード、プリンタポートモードなどのさまざまな項目について設定ができます。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝HWセットアップ] アイコン () をダブルクリックする

使用方法

■ [General] タブ

セットアッププログラムのバージョンやハードディスクドライブのモード、メモリ容量などを表示します。このタブでは設定の変更はできません。



(表示例)

■ [Password] タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

【パスワードの登録】

- ① [User Password] の [Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [Verify Password] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

【パスワードの削除】

- ① [User Password] の [Not Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

 ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

■ [Device Config] タブ

パソコンが起動したときに BIOS が初期化する装置を指定します。

【Device Configuration】

- All Devices
すべての装置を初期化します。通常はこちらに設定します。
- Setup by OS
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。

■ [Parallel/Printer] タブ

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。ご使用になるプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。

【Parallel Port Mode】

- ECP
ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。
- Standard Bi-directional
双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

 [プリンタの設定](#) ⇨ 「3章 4 プリンタを接続する」

■ [Display] タブ

表示する装置を選択します。

【Power On Display】

- Auto-Selected
システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。
- Simultaneous
外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

 [CRT ディスプレイの接続](#) ⇨ 「3章 10 CRT ディスプレイを接続する」

 [テレビの接続](#) ⇨ 「3章 5 テレビを接続する」

■ [CPU] タブ

CPU の操作について説明します。

【Processor Serial Number】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- **Enabled**
有効にします。
- **Disabled**
無効にします。

【Dynamic CPU Frequency Mode】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

- **Dynamically Switchable**
CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- **Always High**
CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- **Always Low**
CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

■ [Boot Priority] タブ

パソコンの起動について設定します。

【Boot Priority Options】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は [FDD → HDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【Power On Boot Select】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

● Enabled

メニュー起動メッセージを表示します。
電源を入れたとき、次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F2] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に(F2)キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。

● Disabled

メニュー起動メッセージを表示しません。

■ [USB] タブ

USB 対応機器について設定します。

【USB Legacy Emulation】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● Disabled

レガシーサポートを行いません。通常はこちらに設定します。

● Enabled

レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSB キーボード、USB マウスが使用可能になります。

■ [LAN] タブ

LAN 機能について設定します。

【Wake-up on LAN】

Wake up on LAN 機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- Enabled

Wake up on LAN 機能を使用します。

- Disabled

Wake up on LAN 機能を使用しません。

■ [Hardware Alarm] タブ

本体のアラーム音について設定します。

【Hardware Alarm Options】

- Alarm Volume

アラームの音量をスライダバーで調整します。

- ・ Low Battery Alarm

バッテリー消耗時の警告音を鳴らす場合は、チェックします。

- ・ Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じたことを知らせる警告音を鳴らす場合は、チェックします。

- System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビーブ音を鳴らす場合は、チェックします。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする

ポインタが  に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3

セットアッププログラムを使う

セットアッププログラムとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。BIOS と呼ばれる場合もあります。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定



- BIOS (バイオス : Basic Input Output System) ● パソコンを動作させるために必要となる基本的なプログラムを集めたもの。

セットアッププログラムをご使用になる前に

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行なってください。
セットアッププログラムと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- セットアッププログラムで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動

1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、パスワードが登録されています。パスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

 パスワードについて

☛ 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」、「本節 4-② PASSWORD」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

2 終了

終了方法

変更した内容を有効にして終了します。

1 (End)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、セットアッププログラムが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合があります。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (Esc)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

3 画面と基本操作

セットアッププログラムには次の画面があります。

① MEMORY = 131072KB*1

② PASSWORD = Not Registered

③ BATTERY = Full Power

④ PERIPHERAL

- USB Legacy Emulation = Disabled
- Parallel Port Mode = ECP
- Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

⑤ BOOT PRIORITY = FDD→HDD→CD-ROM→LAN

⑥ DISPLAY

- Power On Display = Auto-Selected
- LCD Display Stretch = Disabled
- TV Config.

⑦ OTHERS

- CPU Cache = Enabled
- Level 2 Cache = Enabled
- Processor Serial Number*2 = Disabled
- Dynamic CPU Frequency Mode*2 = Dynamically Switchable
- Auto Power On = Disabled
- Alarm Volume = High
- System Beep = Enabled

↑↓+* : Select items Space, BkSp : Change values PgDn, PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

*1 モデルによって異なります。

*2 インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

⑧ CONFIGURATION = All Devices

⑨ I/O PORTS = LPT1(378H/IRQ7/CH3)

⑩ PCI BUS = IRQ11

⑪ PC CARD = Auto-Selected

⑫ DRIVES I/O

- HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)
- CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)

⑬ FLOPPY DISK I/O = (3F2H/IRQ6/CH2)

↑↓+* : Select items Space, BkSp : Change values PgDn, PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

基本操作は次のとおりです。

■ 変更したい項目を選択する

(↑)、(↓)、(←)、(→)キーを押す

項目が移動します。

画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。

■ 項目の内容を変更する

(Space)または(BackSpace)キーを押す

項目の内容が変わります。

■ 画面を切り替える

(PgDn)または(PgUp)キーを押す

次の画面または前の画面に切り替わります。

■ 設定内容を標準値にする

(Home)キーを押す

次の項目以外は、設定が標準設定になります。

- PASSWORD
- Hard Disk Mode
- Write Policy

4 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

① MEMORY—メモリ容量を表示する

【Total】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

② PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

【Not Registered】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【Registered】

パスワードが設定されているときに表示されます。

■ パスワードに使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「*****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	- ^ @ [] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・ 全角文字（2バイト文字）・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など・ 単独のキーで入力できない（入力するときにShiftキーなどを使用する）文字 【例】 （バーチカルライン）、&（アンド）、 ~（チルダ） など・ ¥（エン） ¥キーやrキーを押すと¥が入力されます。	

■ パスワードの登録

パスワードの設定は「東芝HWセットアップ」で行なってください。

 東芝HWセットアップ ☞ 「本章 2 東芝HWセットアップを使う」

キーフロッピーディスクを作成したい場合は、セットアッププログラムで行なってください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。あらかじめご用意ください。



● **キーフロッピーディスク** ● パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのこと。



● キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

1 セットアッププログラムを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

 パスワードの削除方法 ☞ 「本項 パスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。入力すると1文字ごとに*が表示されます。

 入力できる文字 ☞ 「本項 パスワードに使用できる文字」

4 (Enter)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。入力すると1文字ごとに*が表示されます。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、(End)キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして(Y)キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに(Y)キーを押します。

セットアッププログラムの画面に戻るには(N)キーを押します。手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

 キーフロッピーディスクの使いかた

☞「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

- ① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す
フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。
フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

■ パスワードの削除

「東芝 HW セットアップ」からの削除については「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」をご覧ください。

- 1 セットアッププログラムを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 (Enter)キーを押す
パスワードが削除されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

 ● 入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

■ パスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、(Enter)キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

2 パスワードを再設定する場合は、(Y)キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 パスワードの登録」の手順2以降を行なってください。再設定後、システムが再起動します。

パスワードを再設定しない場合は、(N)キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk, then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ パスワードの変更

パスワードの削除を行ってから、登録を行なってください。

 パスワードの削除と登録について

➡ 「本項 パスワードの削除」、「本項 パスワードの登録」

■ パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入カミスは3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

 パスワードを忘れた場合 ➡ 「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

インスタントセキュリティ状態にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはパスワードを入力してください。インスタントセキュリティ状態にしたときに、パスワードを忘れてしまった場合、キーフロッピーディスクは使用できません。

③ BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

[Battery Save Mode]

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

-  ● Windows を使用している場合は「東芝省電力ユーティリティ」の設定が有効になり、「Battery Save Mode」の設定は無効になります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●Low Power	●User Settings (設定例)
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Bright* ¹ Super-Bright* ²	LCD Brightness = Semi-Bright* ¹ Bright* ²	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

* 1 バッテリ駆動時

* 2 AC アダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやアキュポイントⅡの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウスを移動させてください。

・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

・ Semi-Bright 低輝度に設定する

・ Bright 高輝度に設定する

・ Super-Bright 最高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

・ Maximum Performance... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。

・ Performance CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。

・ Battery Optimized CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。



● マルチドライブモデルの場合、パソコン本体に電源が入っているときは、ファンが常時回転しています。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

④ PERIPHERAL—HDD や外部装置の設定をする

【USB Legacy Emulation】

USB キーボード／マウスのエミュレーションを設定します。

- ・ Disabled (標準値) USB キーボード／マウスのレガシーサポートを行わない
- ・ Enabled レガシーサポートを行う

ドライバなしで USB キーボード／マウスが使用可能になります。「USB Legacy Emulation」の設定は、USB マウス、USB キーボードだけに適用されます。USB マウスと USB キーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウスとキーボードを接続しておく必要があります。

【Parallel Port Mode】

パラレルポートモードの設定をします。

Windows で使用する場合は、標準値のまま使用できます。

- ・ ECP (標準値) ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。



- Windows を使用している場合は「東芝省電力ユーティリティ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

【Hard Disk Mode】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行なってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値)
..... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

⑤ BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【BOOT PRIORITY】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「FDD → HDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- } 指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

- ・ **F**キー フロッピーディスクドライブから起動する
- ・ **B**キー 内蔵ハードディスクドライブから起動する
- ・ **C**キー マルチドライブから起動する
- ・ **N**キー 内蔵LANから起動する

【Power On Boot Select】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) メニュー起動メッセージを表示する
- ・ Disabled メニュー起動メッセージを表示しない

「Enabled」を選択すると、電源を入れたときに次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

"Press [F2] for the boot drive selection menu."

このメッセージが表示されている間に**F2**キーを押すと、次のメニューが表示されますので、起動したいドライブのキーを押します。キーを押すと一時的に起動優先順位を最上位に設定し、システムを起動します。下記以外のキーを押しても、システムは起動しません。

```
Select boot device
[C] : CD-ROM
[N] : Network (LAN)
[F] : FDD
[B] : Built-in HDD
[D] : Default SYSTEM SETUP Device
Press [C] , [N] , [F] , [B] or [D] .
```

- ・**C**キー マルチドライブから起動する
- ・**N**キー 内蔵 LAN から起動する
- ・**F**キー フロッピーディスクドライブから起動する
- ・**B**キー 内蔵ハードディスクドライブから起動する
- ・**D**キー セットアッププログラムの設定に従って起動する

⑥ DISPLAY—表示装置の設定をする

【Power On Display】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

【LCD Display Stretch】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled (標準値) 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【TV Config.】

TV 受信機の種類を選択します。

● **TV Type**

- ・ NTSC (JAPAN)(標準値) 日本仕様の TV 受像機
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受像機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受像機

● **TV Output Signal**

ビデオ出力信号の設定を表示します。変更はできません。

- ・ Composite ビデオ出力。コンポジット信号を出力する

⑦ OTHERS—その他の設定をする**【CPU Cache (キャッシュ)】**

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● **Write Policy**

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) 書き込み方式を「Write-back」に設定する
 キャッシュメモリにデータを書き込み、
 キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
 キャッシュメモリとメインメモリに、
 同時にデータを書き込みます。

【Level 2 Cache】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【Processor Serial Number】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

【Dynamic CPU Frequency Mode】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

- ・ Dynamically Switchable (標準値)
..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

【Auto Power On (タイマ・オン機能)】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows Me を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) タイマ・オン機能が設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。



- パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。



- **インスタントセキュリティ** ● 画面の表示をオフにし、キー入力 (アキュポイントII、マウスを含む) もできない状態のこと。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled Wake up on LAN 機能を使用しない

【Alarm Volume】

アラームの音量を設定します。

- ・ High (標準値) 大きな音でアラーム音を鳴らす
- ・ Medium High と Low の中間レベルの音でアラーム音を鳴らす
- ・ Low 小さな音でアラーム音を鳴らす
- ・ Off アラーム音を鳴らさない

「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウが開きます。

次に「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Low Battery Alarm

バッテリー消費時の警告音を設定します。

- ・ Enabled (標準値) 警告音を鳴らす
- ・ Disabled 警告音を鳴らさない

● Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じられたことを知らせる警告音を設定します。

- ・ Enabled (標準値) 警告音を鳴らす
- ・ Disabled 警告音を鳴らさない

【System Beep】

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビーブ音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) システムビーブ音を鳴らす
- ・ Disabled システムビーブ音を鳴らさない

⑧ CONFIGURATION

【Device Config】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
- ・ All Devices (標準値) すべての装置を初期化する

ブレインストールされている OS を使用する場合は、「All Devices」を選択してください。

⑨ I/O PORTS (I/O ポート)

【Parallel】

パラレルポートの割り当てを設定します。
「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。
次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● DMA

DMA チャンネルを設定します。
「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

⑩ PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【PCI BUS】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

⑪ PC CARD—PCカードのモードを選択する

【Controller Mode】

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected(標準値) ... Windows Me、Windows 98、Windows 95、Windows 2000 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit Windows NT を使用しているとき、または、Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Windows NT を使用しているとき、または、Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

⑫ DRIVES I/O—HDD や CD-ROM の設定

【HDD】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【CD-ROM】

マルチドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。



- 内蔵されているドライブがCD-ROMドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

⑬ FLOPPY DISK I/O

【Floppy Disk】

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャンネルの設定を表示します。変更はできません。

付録

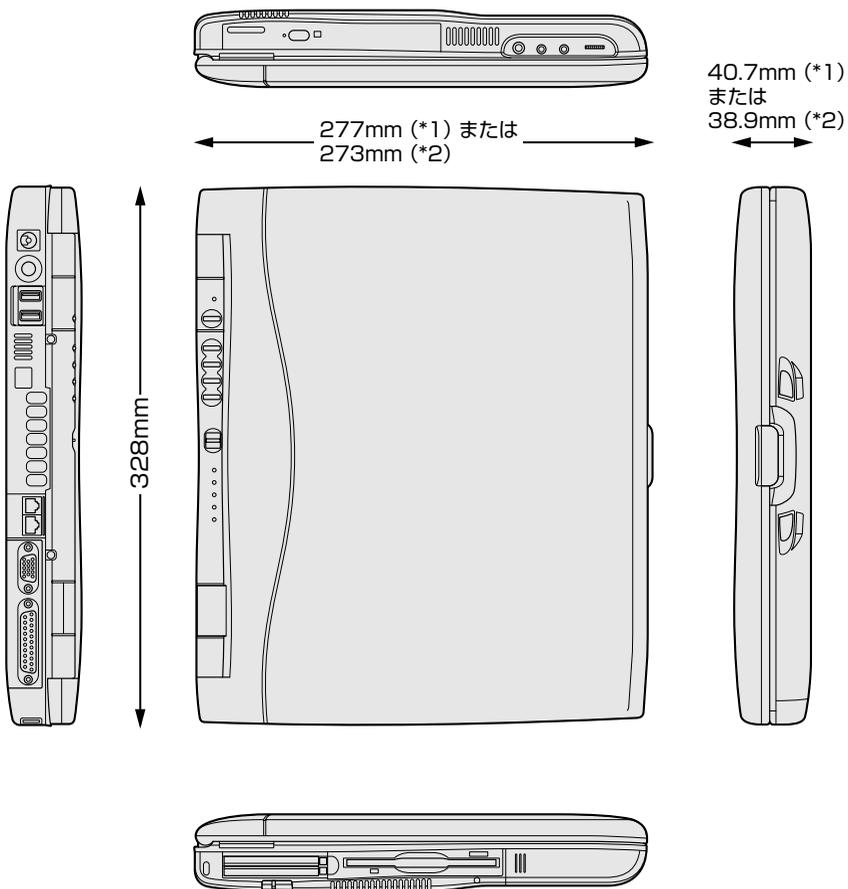
- 1 本製品の仕様 114
- 2 各インターフェースの仕様 121

1

本製品の仕様

1 外形寸法図

*数値は突起部を含みません。



(*1) 15.0 インチモデル
(*2) 14.1 インチモデル

2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。



- 本製品のディスプレイは 640 x 480 ドットのモードを選択しても、SVGA のタイミングで動作しています。そのため、VGA 専用の CRT ディスプレイとの同時表示はできません。同時表示をする場合は、SVGA の CRT ディスプレイを使用してください。

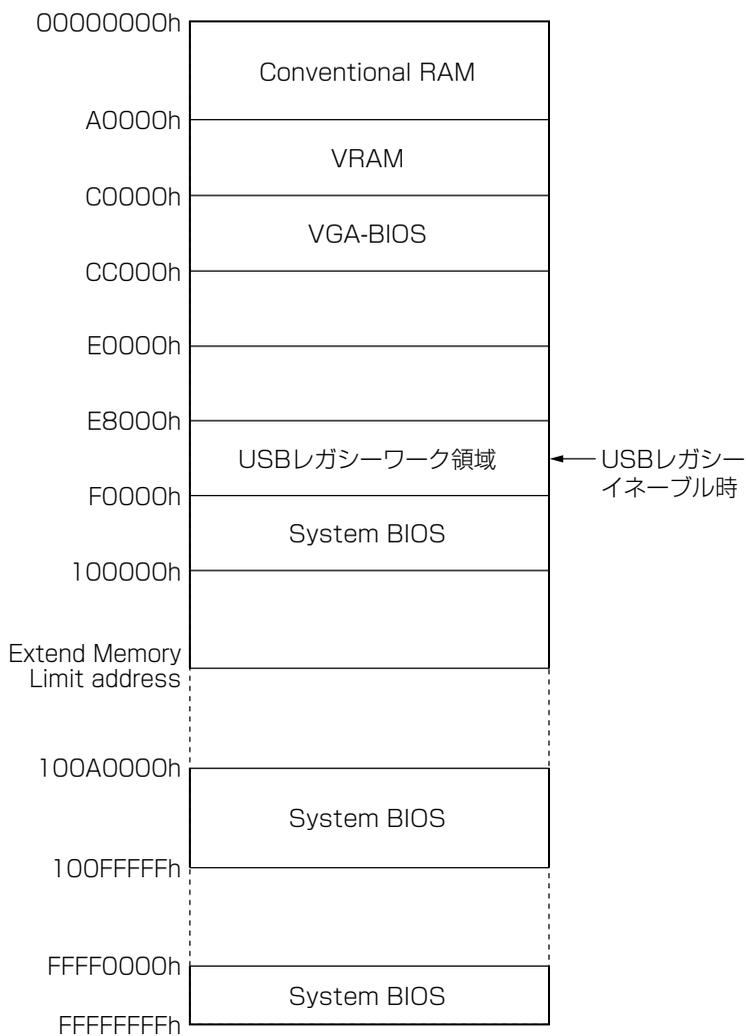
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	LCD/CRTの表示	CRTリフレッシュレート(Hz)	
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70	
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K		
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K		
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K		
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K		
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K		
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K		
6	グラフィックス	640 x 200ドット	8 x 8	2/256K		
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ		
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K		60
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K		
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ		
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K		
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K		
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K		
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	LCD/CRTの表示	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット	—	256/256K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	256/256K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット	—	64K/64K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	64K/64K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M	60/75
—		1280 x 1024ドット	—	16M/16M*1	60

*1：LCDで表示する場合、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスキレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	
170h	マルチドライブ
178h	HDC
1F0h	
1F8h	(Joystick)
200h	サウンド (SB Pro)
220h	サウンド (SB Pro)
240h	
260h	プリンタポート #2
278h	
280h	
2A0h	シリアルポート #4
2E8h	
2F0h	シリアルポート #2 (モデム)
2F8h	
300h	マルチドライブ
376h	プリンタポート #1
378h	
380h	VGA
3B0h	プリンタポート #3
3BCh	VGA
3C0h	東芝PCカードインタフェースコントローラ
3E0h	シリアルポート #3
3E8h	FDC/HDC
3F0h	シリアルポート #1
3F8h	
400h	
480h	DMA Hiページレジスタ
4A0h	
530h	サウンド (WSS)
538h	
604h	サウンド (WSS)
60Ch	
E80h	サウンド (WSS)
E88h	
F40h	サウンド (WSS)
F48h	

5 DMA 使用リソース

DMA		PIT
0	なし	1
1	プリンタポート (ECP) *	
2	FDC	
3	プリンタポート (ECP) *	2
4	Cascade for CTLR1	
5	なし	
6	なし	
7	なし	

* プリンタドライバにより設定されます。

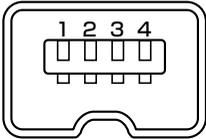
6 IRQ使用リソース

IRQ		PIT
0	タイマ (PIT)	#1
1	キーボード (KBC)	
2	IRQ8~15 PIT #2入力	
3	空き (COM1~COM4、PCカード)	
4	空き (COM1~COM4、PCカード)	
5	空き (COM1~COM4、PCカード、プリンタポート #2)	
6	FDC	
7	プリンタポート #1 (COM1~COM4、PCカード)	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	空き (COM1~COM4、PCカード)	
11	PCI、モデム、サウンド、PCカード、USB、LAN、IEEE1394、グラフィックコントローラ	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	マルチドライブ	

2

各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

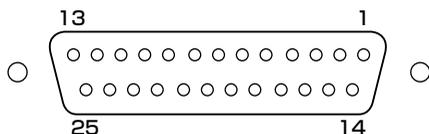
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 PRTインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-STROBE	PD0～7のデータを書き込むための同期出力信号	O
2	PD0	PD0のデータを送信する信号	I/O
3	PD1	PD1のデータを送信する信号	I/O
4	PD2	PD2のデータを送信する信号	I/O
5	PD3	PD3のデータを送信する信号	I/O
6	PD4	PD4のデータを送信する信号	I/O
7	PD5	PD5のデータを送信する信号	I/O
8	PD6	PD6のデータを送信する信号	I/O
9	PD7	PD7のデータを送信する信号	I/O
10	-ACK	-STROBEに対するデータ受信完了信号	I
11	BUSY	データ受信できるかどうかを示すステータス信号	I
12	PE	用紙切れを知らせるステータス信号	I
13	SELECT	セレクト／ディセレクト状態を示すステータス信号	I
14	-AUTFD	自動用紙送り機構用信号	O
15	-ERROR	アラーム状態を示すステータス信号	I
16	-PINT	初期状態に戻す信号	O
17	-SLIN	未使用	O
18	GND	信号グランド	
19	GND	信号グランド	
20	GND	信号グランド	
21	GND	信号グランド	
22	GND	信号グランド	
23	GND	信号グランド	
24	GND	信号グランド	
25	GND	信号グランド	

コネクタ図



D-SUB 25ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 RGBインタフェース

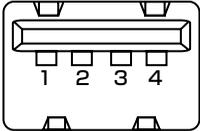
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	ID0	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

高密度D-SUB 3列15ピンメス

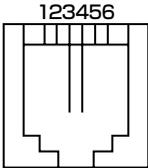
信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 モデムインタフェース

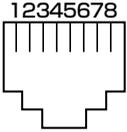
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

6 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (1)：パソコン本体への入力

信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 省電力設定について ⇨ 「1 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook Satellite 2801

Model number : PS280*

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, parallel port, USB port, IEEE1394 port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA



EU Declaration of Conformity
EU Übereinstimmungserklärung
Déclaration de conformité UE
Declaración de conformidad de la UE
Dichiarazione di conformità UE
EU Försäkran om överensstämmelse

Toshiba declares, that the product: PS280* conforms to the following Standards:

Toshiba erklärt, daß das Produkt: PS280* folgenden Normen entspricht:

Toshiba déclarent que le produit cité ci-dessous: PS280* est conforme aux normes suivantes:

Toshiba declaran que el producto: PS280* cumple los siguientes estándares:

Toshiba dichiara, che il prodotto: PS280*, é conforme alle seguenti norme:

Toshiba intygar att produkten: PS280* överensstämmer med följande normer:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC.”

Weitere Informationen: “Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC Richtlinie 89/336/EG.”

Informations complémentaires: “Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE.”

Información complementaria: “El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE.”

Ulteriori informazioni: “Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG.”

Ytterligare information: “Produkten uppfyller kraven enligt lågspanningsdirektiv 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A99-1147JP

本製品をご使用になるには、本製品の直流回路の抵抗値（324 Ω）と、電話回線路の直流抵抗値の合計が、1700 Ω以下であることが必要です。

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、クウェート、ギリシャ、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、レバノン、ロシア

(2001年5月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承願います。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



詳細について ➡ 《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to conform with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- _ The telephone number of the line to which you will connect the modem
- _ The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- _ The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by Toshiba Corporation or an authorized representative of Toshiba Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
- Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 2117 10330A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country selection is set to Australia.

The use of other country setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the country is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT+GCI=9
```

Failure to set the modem to the Australia country setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

_ The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

_ In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:

- a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
- b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

_ This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

_ Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:

- a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

_ Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

_ The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATSO=0 (not auto answer)

ATS6=2, 3, 4 or 5 (Blind dial delay, factory default value of 4 is recommended)

ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 20 recommended)

ATS11=95 (DTMF dialing on/off duration=95 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

_ When used in the Auto Answer mode, the SO register must be set with a value between 2 and 10. This ensures:

- (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
- (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- _ The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- _ The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- _ It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- _ When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- _ This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA710 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用
しています。

本装置の定格銘板に
は、右記の表示がされ
ています。

本装置はヨーロッパ共
通のレーザ規格

EN60825 で“クラ
ス1レーザー機器”に
分類されています。

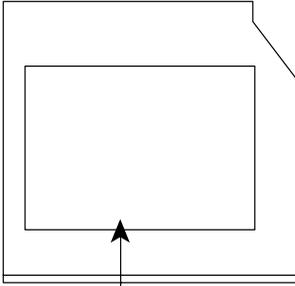
レーザー光を直接被爆
することを防ぐため
に、この装置の筐体を
開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
WARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



MANUFACTURED:
SERIAL NO.

COMPLIES WITH FDA RADIATION
PERFORMANCE ATANDARDS,21
CFR SUBCHAPTER J.

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

Manufactured by
kyushu Matsushita Electric.,Ltd.
1-62,4-Chome Minoshima Hakata-Ku
Fukuoka,Japan

さくいん

(記号)

 キーを使った
ショートカットキー 36

(A)

Active Desktop の設定 42
Arrow Mode LED 33

(B)

BATTERY 102
BIOS 93
BOOT PRIORITY 105
[Boot Priority] タブ 91

(C)

CapsLock LED 33
CONFIGURATION 110
[CPU] タブ 90
CRT ディスプレイの接続 70

(D)

[Device Config] タブ 89
DISPLAY 106
[Display] タブ 89
DRIVES I/O 112

(F)

FLOPPY DISK I/O 112
Fn キーを使った特殊機能キー 34

(G)

[General] タブ 87

(H)

[Hardware Alarm] タブ 92

(I)

i.LINK 対応機器の取り付け 63
i.LINK 対応機器の取りはずし 64
i.LINK による
ネットワーク接続 64
I/O PORTS 111
IEEE1394 対応機器の
取り付け 63
IEEE1394 対応機器の
取りはずし 64

(L)

LAN ケーブルの接続 74
[LAN] タブ 92

(M)

MEMORY 97

(N)

Numeric Mode LED 34

(O)

OTHERS 107

(P)

[Parallel/Printer] タブ	89
PASSWORD	97
[Password] タブ	88
PC CARD	111
PCI BUS	111
PC カード	52
PC カードの取り付け	53
PC カードの取りはずし	54
PC カードをロックする	55
PERIPHERAL	104

(S)

SCMS	67
------------	----

(U)

USB 対応機器の取り付け	56
USB 対応機器の取りはずし	57
[USB] タブ	91

(W)

Windows のネットワーク設定	75
------------------------	----

(ア)

新しいハードウェアの 追加ウィザード	50
アロー状態	33

(イ)

インスタントセキュリティ	109
インスタントセキュリティ機能	34
インタフェース	48

(ウ)

ウィンドウの色を変える	40
-------------------	----

(オ)

大文字ロック状態	33
----------------	----

(カ)

海外でインターネットに 接続する	44
回線切換器	43
解像度を変える	38
壁紙を変える	39

(キ)

キーシフトインジケータ	32
休止状態	26

(サ)

再起動	28
-----------	----

(シ)

省電力モードの詳細設定	20
シンクロ録音機能	67

(ス)

数字ロック状態	34
スクリーンセーバを使う	41
スタンバイ	24

(ソ)

増設メモリの取り付け	81
増設メモリの取りはずし	83

(テ)

テレビに表示する	60
----------------	----

(ト)

東芝HWセットアップ	87
東芝HWセットアップのヘルプ ...	92
東芝省電力ユーティリティ	17
東芝省電力ユーティリティのヘルプ	23
特殊機能キー	36
時計用バッテリー	12
ドライバをインストールする	50

(ナ)

内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ	44
-----------------------------	----

(ネ)

ネットワーク設定	75
----------------	----

(ノ)

ノーマル	18
------------	----

(ハ)

ハイパワー	18
バッテリー駆動	8
バッテリー駆動での使用時間	14
バッテリー充電量が減少したとき ...	12
バッテリー充電量を確認する	10
バッテリーの充電時間	13
バッテリーの充電方法	13
バッテリーパックの 取り付け／取りはずし	15
パネルスイッチ機能	30

(ヒ)

光デジタル対応機器の 取り付け	65
光デジタル対応機器の 取りはずし	66
光デジタル対応機器への録音	67
ビデオケーブルの取り付け	60
ビデオケーブルの取りはずし	61
表示可能色数	37
表示装置を切り替える	70

(フ)

プラグアンドプレイ	50
プリンタの設定	58
プリンタの追加ウィザード	59
プリンタの取り付け	58
プリンタの取りはずし	59
プリンタポートモードの設定	59
フルパワー	18
分岐アダプタ	43

(へ)

ヘッドホンの接続 69

(ホ)

ホットインサージョン 51

(マ)

マイクロホンの接続 68

(ロ)

ロングライフ 18